

「龍頭が滝案内」第1回

「龍頭が滝（雄滝）の高さは？」

龍頭が滝は、明治から令和までだけではなく、江戸時代の文献にもその名前が出てきます。そこで「龍頭が滝案内」と題しまして、いくつかのテーマに分けて紹介させていただきたいと思います。

第1回目は「龍頭が滝（雄滝）の高さは？」、です。

龍頭が滝（雄滝）の高さ（落差）を実際に測定してみたいのですが、現場は絶壁です。平地を測量するようなわけにはいきませんし、危険が伴います。また、そもそも滝の高さの始点と終点をどこにすればいいのでしょうか。

そこで、こんな方法を思いつきました。国土地理院のホームページでは地図を自由に閲覧することができ、しかも標高が掲示されますので、これを利用して概ねの高さ（落差）を出そうというものです。

下の左側の図は、国土地理院ホームページの抜粋です。落下が始まると思われる少し上流の標高は379メートル。滝つぼの河原辺りは363メートルですから、標高差は16メートル（ $379 - 363$ ）です。

ちなみに滝の右側にある屏風のような絶壁は、標高差が37メートル（ $400 - 363$ ）にもなります。

龍頭が滝（雄滝）は、40メートルほどの屏風（絶壁）に囲まれた、優雅さをたたえるコンパクトな滝といえるかもしれません。

今回は、江戸時代編纂の「雲陽誌」に描かれた松笠村の紹介をする予定です。

《龍頭が滝付近の標高について》

